

消費者市民社会の一員として
持続可能な社会を目指した

意思決定能力の育成

第3弾

「食品ロス」から学ぶエシカル消費



国民1人1日当たり食品ロス量は、おおよそ茶碗1杯分のご飯の量に相当^{※1}

～あなたの消費が世界の未来を変える～

1 家庭科で「食品ロス」を学ぶ



提案！ 「食品ロス」についての授業を追加してみませんか？

「食品ロス」についての授業を、これまでの題材に、新たに1時間追加する形で取り入れ、生徒の食生活への課題意識を育てます。

生徒が主体的・対話的に「食品ロス」について学ぶことで、自分自身の食生活への課題意識が高まると共に、**エシカルなライフスタイルへの気付き**が期待できます。

中学校 技術・家庭科(家庭分野)「食生活と自立」

- 中学生の1日分の献立を考えることができる。
- 食品の品質を見分け、用途に応じて選択できる。
- 基礎的な日常食の調理ができる。
- 課題をもって調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践できる。

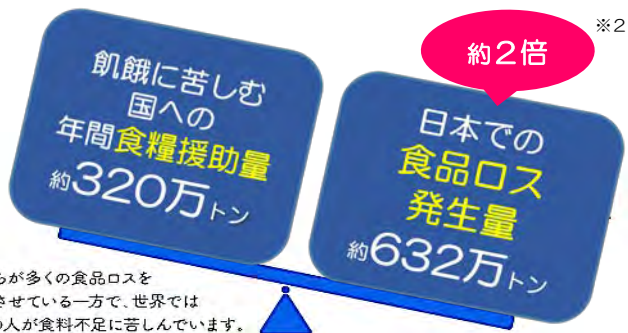


「食品ロス」授業のねらい

- 「食品ロス」について、収集・整理した情報を活用し、多角的に考えること。
- 「食品ロス」に関心をもち、自分の食生活で「食品ロス」を減らすための取組を考え、実践すること。

2 食品ロス

『**食品ロス**』とは、本来食べられるのに廃棄されている食品をいいます。私たちは多くの食べ物を輸入しながら、大量に捨てています。大切な食べ物を無駄なく消費し、食品ロスを減らしていくことは、環境面だけでなく、家計面にとっても生活のプラスになります。「買う」行為だけでなく、「買わない」行為まで考えることが大切です。



国民1人1日当たりの食品ロス
茶わん約1杯のご飯の量に相当 (約136g) ※1



資料：WFP, 総務省人口推計(25年度)

3 エシカル消費 ～あなたの消費が世界の未来を変える～

エシカル消費とは

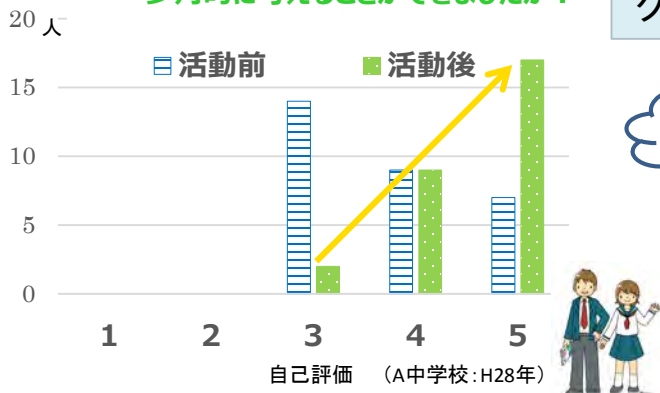
「地域の活性化や雇用なども含む、**人や社会・環境に配慮した消費行動**」
(消費者基本計画)

本教材では、**社会的課題**「食品ロス」を減らすために、自分自身ができる具体的な取組を考え、提案します。

消費者それぞれが、各自にとっての**社会的課題**の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援したりしながら、消費活動を行うこと。
(「倫理的消費」調査研究会中間取りまとめ)

多角的に考え、「グローバルな視点」をもつ

「食品ロス」を減らすのは何のためか、
多角的に考えることができましたか？



グローバルな視点

ローカルな視点

世界に
目を向ける

家庭や地域

持続可能な文化を創り出す
グローバルな視点

食品ロスに関わる話題

◆世界の取組

- ・【H28年5月】G7の環境大臣会合
2030年までに世界全体の
1人あたりの食品廃棄量の半減を
目指し、各国が協調して
取り組むことで一致。



◆国の取組

- ・【H28年3月】第3次食育推進基本計画
「食品ロス削減のために何らかの行動を
している国民の割合」
H26年度:67.4%
H32年度:目標値80%



◆企業の取組

- ・賞味期限を日付表示から月表示へ
- ・1/3ルールの見直し など※1



◆消費者の取組

- ・食材を「買い過ぎず」「使い切る」「食べ切る」
- ・「消費期限」と「賞味期限」の
違いの理解 など※1



エシカル消費への意識

本教材で「食品ロス」を学ぶこと

廃棄段階

購入段階

思考を広げる

4種類の資料
(P.4参照)

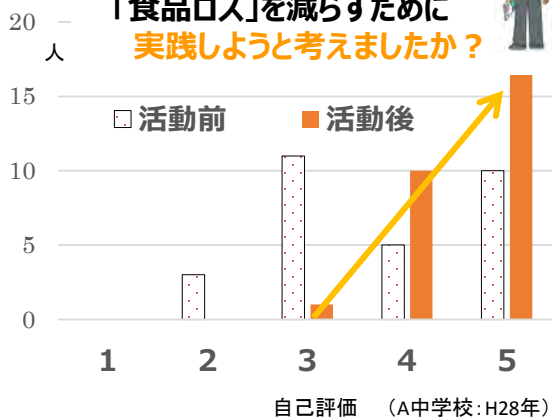
消費者市民
エシカル消費

- 「環境への配慮」
- 「社会への配慮」
- 「地域への配慮」
- 「人への配慮」

意識を高める



「食品ロス」を減らすために
実践しようと考えましたか？



主体的

生徒は、話し合いの前に課題への「自分の考え」を書き記すことで、その後の学習活動を通して、自らの考えを検証していく問題解決的な学習の形をとります。

ワークシート



学習後

4. 活動後 (自分の考え) 「食品ロス」を学び、これから取り組みたいことと、その根拠を書きましょう。

【工夫・創設】
 「食品ロス」を学んで、私はこれから、少しでも食品ロスしないようにしたいです。
 自分なら、世界の食品ロスで20億人も十分に生きていける量があるなんて、もったいない
 と思うました。そして日本では500~800万トンの食品ロスがあり、横浜の人の一人あたり年間17000円
 (そのロスが約) そのことを知ると、もったいないこととして、しめがきでして。だから自分はこれら、食
 品ロスを抑えようと、食べ物で食べるに際しては、なるべく残さず、冷めた食料を食べるの
 こと、消費者の立場から考えて、買物する時、買物の物から、お母さん、お父さん、おじいさん、おばあさん
 さんには、午前4時までに、捨てる量が、服のからむ。この三つのことを実行すれば、食品ロスが減ると思
 います。また、みんながそれぞれ、日本の食品ロスは減らさないといいました。

- 【自己評価】
 ①「食品ロス」を減らすのは何のためか、多角的に考えることができました。(できた) ④ 4 3 2 1
 ②「食品ロス」を減らすために実践しようと考えましたか。(できた) ⑤ ④ 3 2 1

授業を振り返って... (自由に感想を書いてください)
 みんなで資料を見せ合い、意見を交換して、食品ロスのこと知ってためになった。

対話的

コミュニケーションを通じて、お互いの知識や技能などを互恵的に交換しつつ課題を達成していく学習の形をとります。

話し合い後に、**ゴール**
 自分の考えをワークシートに記入。
 「取り組みたいこと」と「根拠」も記入。

スタート
 話し合いの前に、
 自分の考えをワークシートに記入。

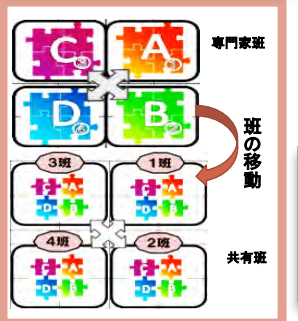


深い学び 検証

各班、課題の答えを根拠も合わせて学級で発表します。また、自分の考えに合った表現を見付けます。



A~Dの資料ごとの班で、資料の内容や意味を話し合い、班で理解を深めます。



A~Dの違う資料を読んだ人が共有班に集まり、専門家班の活動で分かってきた内容を説明し合います(交換)。そして、どのように思ったかを伝え合い、A~Dの知識を組み合わせ、自分たちの考えをまとめ、課題への答えを作ります(統合)。



深い学び

自らの学びを振り返って、学んだことの価値を明らかにすると共に、自分の成長に気づき、次の学習活動に向けて、意欲と自信を高めていきます。

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

「食品ロス」、知ることから始めよう！

「食品ロス」の実態を知る 4種類の資料

A 世界から「食品ロス」を考えよう

B 日本の「食品ロス」を考えよう

C 横浜市の「食品ロス」を考えよう

D 消費者の立場から
「食品ロス」を考えよう

A 世界 ※3



B 日本



C 横浜市



D 消費者



子どもの社会的スキルの育成

「だれもが」「安心して」「豊かに」学ぶために
横浜プログラムの考え方を取り入れた授業のススメ

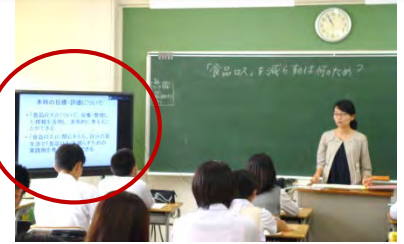


ICT活用

プレゼンテーション

生徒に授業の展開を視覚的に説明できます。

可視化



専門家班での活動

資料の内容や意味を話し合い、
班で理解を深めます。

8分 **話し合い**
・司会を決めよう
・仲間の発表を温かく聞こう

〈今日解くべき課題〉

「食品ロス」を減らすのは
何のため？

自分の考えをワークシートに記入

「横浜プログラム」

子どもたちの健やかな人間関係をつくり出し、豊かな心と逞しく
生きる力の育成に役立ちます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/plan-hoshin/skill.html>

教材セット内容

1 学習指導案 (A4・4ページ)

2 教材

- ① 提示用資料
(A3・AB各12枚、CD各8枚)
- ② 手持ち用資料
(A4・A～D各1枚)
- ③ ワークシート (A4・1枚)
- ④ 掲示用「解くべき課題」(A2・1枚)

3 DVD-R (データ)

- ① 提示用資料
- ② 手持ち用資料
- ③ 生徒用プレゼンテーション
- ④ ワークシート
- ⑤ 掲示用「解くべき課題」
- ⑥ 机上用 班表示
- ⑦ 自立度チェックシート
- ⑧ 「生活の課題と実践」プランワークシート
- ⑨ 学習指導案



出典

- ※1: 「食品ロスの削減に向けて～食べものに、もったいないを、もういちど。～平成28年6月」(農林水産)
http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/pdf/lossgen.pdf
(平成29年3月7日に利用)
- ※2: 横浜市資源循環局
ヨコハマ3R夢×横浜F・マリノス「食品ロス削減」ポスター
- ※3: 「ハンガーマップ」2015年版(毎年更新)
国連WFPのWebサイト
<http://ja.wfp.org/publications/materials>

横浜市経済局 消費経済課

組織概要

本教材は、横浜市経済局消費経済課と横浜市教育委員会事務局が連携し、持続可能な社会を構築する消費者市民の育成を目指し、作成しました。横浜市教育委員会事務局では、毎年、教育課程研究委員会を組織し、各校種、各教科ごとに、教育課題に沿って、外部委員の教科専門家である大学教授の指導を受けながら教材を研究・実践し、市内に発信しています。

協力

青木 美穂	(横浜市教育委員会事務局 主任指導主事)
竹山 昭子	(横浜市教育委員会事務局 指導主事)
萬谷 恵三子	(中田中学校 副校長)
関野 かなえ	(末吉中学校 教諭)
杉本 直大	(旭中学校 教諭)
館野 裕美	(下瀬谷中学校 教諭)
塚田 梨絵	(鶴ヶ峯中学校 教諭)
堀内 かおる	(横浜国立大学教育人間科学部 教授)